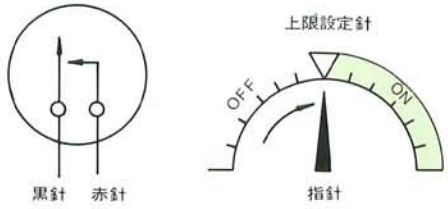
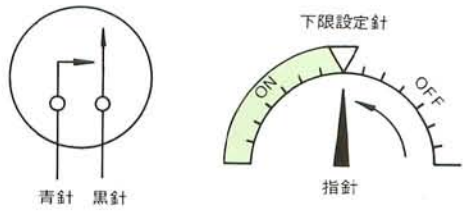
コンタクト接点機構・動作例 14

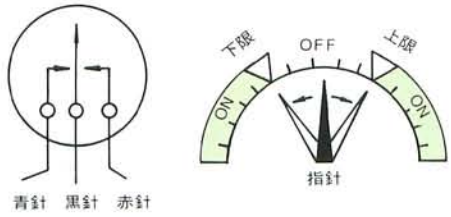
●上限 1 接点式　上昇してON



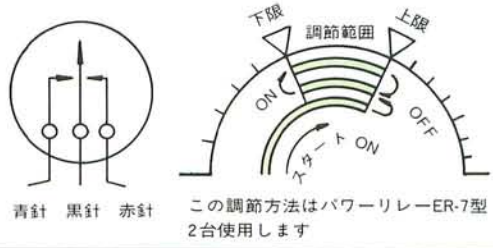
●下限 1 接点式　下降してON



●上・下 2 接点式　上昇又は下降してON

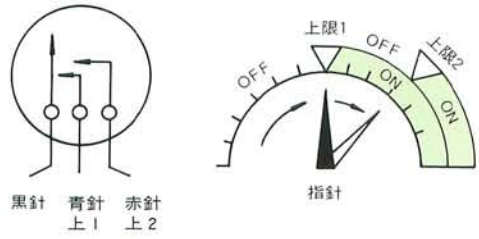


●上・下 2 接点キープリレー方式

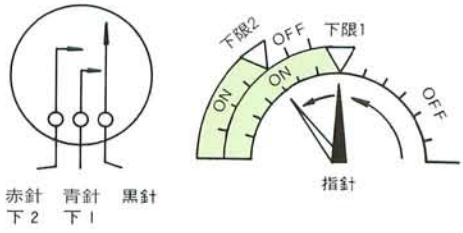


この調節方法はパワーリレーER-7型2台使用します

●上・上 2 接点式　上昇時 2 段階にてON



●下・下 2 接点式　下降時 2 段階にてON



■各種接点方式 比較表

	特　　徴	欠　　点
コンタクト接点 P 13〜18, 20	●接点入切精度が高い。 ●接点の点検，保守がしやすい。 ●無電圧スイッチ。 ●価格が安い。	●接点容量が小さい。 ●接点投入時にチャタリングが発生しやすい。（専用補助リレーER-7型で対応） ●振動の有る場所には不向。
マイクロ接点 P 21〜22	●接点容量が大きい。 ●接点の耐久性が優れている。 ●多少の振動に強い。 ●無電圧 C 接点内蔵。	●接点に接断差が有る。（F. S 3〜5%）（但し接断差を利用して温調が出来ます。） ●温度設定はその都度ケースのフタを開けて行なう。
光電スイッチ P 23〜24	●非接触接点の為，接点に誤動作が無い。 ●接点疲労が無い為，長寿命である。 ●多少の振動に強い。 ●シーケンサーに直結可能。	●接点に接断差が少し有る。（F. S 0.5%） ●操作電源が必要。 ●温度設定はその都度ケースのフタを開けて行なう。
パワー温度調節計 P 19	●簡単な配線で正確な温調が出来る。 ●文字板が大きい為に見やすく，ON・OFF表示燈が組込んである。 ●温調設定がしやすい。	●操作電源が必要。 ●計器の大きさが125φ型のみ。